

## グループ学習や反競争的教育と社会的価値観・経済状況の長期的な関係



研究者所属・職名：経済学研究科・教授

ふりがな おおたけ ふみお

氏名： 大竹 文雄

主な採択課題：

- [基盤研究\(A\)「経済的価値観・利他性の形成と性格特性の労働市場での評価に関する行動経済学的分析」\(2014-2018\)](#)

分野：公共経済および労働経済関連

キーワード：小学校教育、グループ学習、社会的選好、所得、幸福度、隠れたカリキュラム

### 課題

- なぜこの研究をおこなったのか？（研究の背景・目的）

近年、アクティブラーニングを代表とする新しい教育手法を学校で取り入れることが求められている。しかし、グループ学習をはじめとする教育手法が、社会的な価値観や社会経済的状況にどのような影響を与えるのかに関するエビデンスが少ない。日本の小学校では学習指導要領で学習内容は定められているが、教育方法については学校や教員の裁量に任されている部分が多いため、教え方に大きな差異が存在する。その差をもとに、教育手法の長期的影響を分析した。

- 研究するにあたっての苦労や工夫（研究の手法）

グループ学習、反競争的教育、努力重視の教育など日本の小学校の教育は、学校や教師によって教える手法が異なっている。しかし、こうした学校や教師による教え方の差についての統計は存在しない。そこで、インターネット調査を用いて、小学校時代にグループ学習があったか、運動会で徒競走がなかったかなどの隠れたカリキュラムに関して独自に調査した。

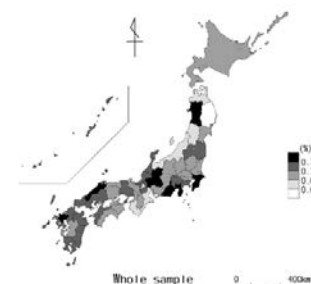


Fig. 1. Regional Distribution of Those Who Experienced Group Work.  
Note: The figures in Fig. 1 show the proportions of those who answered "Yes" to the following statement, "There was a task in which students worked together as a group."

図1 グループ学習経験者比率の地域差

## グループ学習や反競争的教育と社会的価値観・経済状況の長期的な関係

### 研究成果

#### ●どんな成果がでたか？どんな発見があったか？

日本の小学校における隠れたカリキュラムには、地域、学校、時代によって大きな違いがあった。また、隠れたカリキュラムの内容は、長期に渡って教育を受けたものの価値観に影響する可能性がある。

グループ学習に代表される参加型・協力重視型の教育を小学校時代に経験していた人は、大人になってからも利他的であり、他人と協力する傾向にあり、互恵的であり、国に誇りをもっている傾向がある。対照的に、小学校の運動会で徒競走がなかったり、徒競走があったとしても順位がつけられなかった経験がある人は、こうした特性を持たない傾向がある。このような隠れたカリキュラムの正反対の影響は、政府や市場経済への支持でもみられる。参加型学習を経験した人は、政府の再分配政策を支持するが、反競争的教育を受けた人は社会保障の拡充に反対すると同時に市場経済を支持しない傾向にある。勤勉・努力重視の教育を受けた人は、貧困対策を支持する一方で、高所得者と低所得者の格差縮小政策を支持しない。

グループ学習を受けた人は、利他性や互恵性が高いが、学歴、年収が低い傾向にある。そのため、グループ学習の経験者は、経済的な満足度が低い。しかし、グループ学習経験者は家族や配偶者との満足度が高い傾向がある。その結果、グループ学習経験者の幸福度や全般的な満足度は、グループ学習非経験者と変わらない。

これらの研究成果は、*Japanese Economic Review* および *Japan & The World Economy* に掲載された。

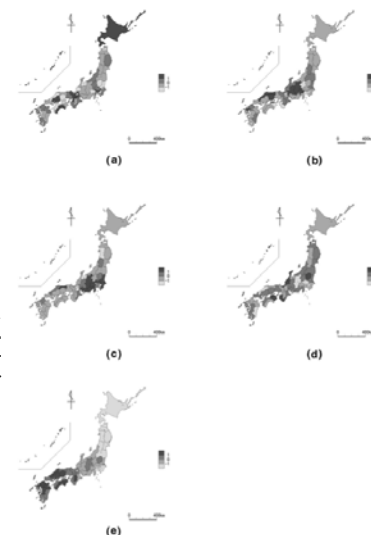


図2 隠れたカリキュラムの地域差（革新、反競争、参加、努力、人権）

### 今後の展望

#### ●今後の展望・期待される効果

本研究では、インターネット調査を用いて、回答者が小学校時代の教育内容で誰もが記憶している可能性が高いものを質問することで、小学校時代の隠れたカリキュラムと大人になってからの経済的価値観、経済的状況、幸福度との関連を分析した。問題点として、回答者の記憶に頼っているため、特定の価値観をもっている人がそれと関連することを記憶しやすいという可能性がある。この問題を解決するために、学校別・時期別の隠れたカリキュラムに関する学校側の情報や制度的変更を用いて自然実験によって因果関係を明らかにすることが必要である。